

## 趣意文

全国の護国神社は英霊を祀るため、どうしても戦争また一部では、戦争肯定の神社というイメージをもたれがちです。しかし、実際に参ってみると「平和」という石碑が、一般の神社と比べてよく建立されています。また、一般の神社よりも清浄で穏やかな雰囲気のお宮も少なくありません。

英霊の多くは未来ある若者たちでした。世界が平和で戦争さえなければ、死ななくて済んだ方々です。英霊にとっても世界の恒久平和は、本願だったはずです。

そこで9月21日の「国際平和デー」に、全国の護国神社で「世界平和」を祈念した奉納イベントを同日一斉に開催いたします。そして、本来の創建趣旨を損なうことなく、護国神社が持たれがちな戦争や軍国主義のイメージを、「平和を願う聖地」に転換したいと考えています。なぜなら護国神社が持たれている「戦争」という陰のイメージを、「平和」という陽のイメージに転換することで、我が国が過去を引きずることなく、真の意味で新しい時代を迎えることが出来るようになるからです。

また、我が国が抱える人口減少と地方の過疎化問題は深刻です。その解決策の1つとして平成26年より政府は「地方創生」を掲げています。しかし、そこに明確なビジョンや理念をなければ、プロジェクトやイベントに求心力はなく、中身のない形だけのものに終わってしまい継続しません。

元来、我が国ではイベントやプロジェクトは「祭り」や「政(まつりごと)」と呼ばれ、必ずその中心には神社仏閣がありました。そこで9月21日にこれから毎年開催する護国神社での奉納揮毫を、今後の地方創生の精神的な柱の1つに据え、そのことで神社仏閣がその本来の役割を果たせるものになりたいと考えています。特に護国神社については戦争で散華された英霊方が祀られています。当時の悲しい時代背景があったとはいえ、その想いはまさに「郷土愛の象徴」であり、地方創生にふさわしいものといえます。

官民の取組だけでは限界のある、地方創生の理念や精神面からのサポート。そして、日本人が世界に誇るべき平和思想、「和の精神」を、これからの国際社会における、日本人のアイデンティティーとして確立させること。それが全国護国神社で開催される、「9.21 世界平和の祈り」の開催趣旨であります。

和プロジェクト TAISHI 代表

宮本辰彦